アメリカ合衆国における
シンクロナイズド・スケーティングの成功モデル
Success model of the synchronized skating in the United States of America

1K05A032　　内田　絢子
指導教員　主査　中村好男先生　　副査 平田竹男先生

●背景

氷上のチア・リーディングとも称されるシンクロナイズド・スケーティング（以下シンクロ・スケート）は、国際スケート連盟が正式種目として認めてから 2009 年で 18 年目となり、その間大幅なルール変更を幾度も経て、新しいスポーツとしての姿を形成する真只中にある種目である。世界選手権が2000年から既に9回行われ、2007 年に行われた第 23 回冬季ユニバーシアードではデモンストレーション競技として扱われるに至った。2014 年冬季ソチ・オリンピックでも公開競技になる可能性を秘めているスポーツである。日本においてはまったく知られていないマイナー・スポーツであり、勝利・普及・収益のいずれの領域も成立していない未熟な段階にあるが、シンクロ・スケート発祥の国、アメリカでは年々チーム数、競技者が著しく増加しており、競技レベルも向上傾向にある。

●目的

本研究では、競技レベル、競技者数がともに世界トップレベルであるアメリカ合衆国のシンクロ・スケートに対する取り組みと 17 回の全米制覇を誇るシンクロ・チームであるヘディネッツを成功事例と捉え、それらを研究し、日本においてンクロ・スケートの振興をいかに突き進めて行くかを見通すための土台作りを容易にすることを目的とする。

●方法

第 1 節では United States Figure Skating Association（以下 USFSA）のシンクロ・スケートに対する取り組みについて文献調査、USFSA が主催する大会への参加・観戦、USFSA が提供するサービスの利用、USFSA が実施する強化プログラムの対象になることで得た情報を整理した。第 2 節のチームの成功モデルに関する研究では、成功モデルには、安定した組織力を有し、17 回の全米優勝を誇るヘディネッツを対象に選手としてチームに所属しフィールド調査を行った。そして第 3 節のシンクロ・スケートを取り巻く環境に関する研究では、約 1 年半に渡りアメリカのシンクロ・スケートを取り巻く環境に触れフィールド調査を行った結果、アメリカのシンクロ・スケート事情を整理する上で USFSA 及びチームの成功モデル以外に提示しておかなければならないと考えた情報に関してまとめた。

●結果

USFSA の取り組み、チームの成功モデル、シンクロ・スケートを取り巻く環境についてそれぞれの実態を把握しまとめることが出来た。

●考察

USFSA についてトリプルミッションモデルを用いてそれぞれの取り組みによってどのような効果が得られ好循環を生み出しているのかを考

察した。またヘディネッツのクラブ形態、マネジメントがチームに及ぼす影響やコーチの質について言及した。そして、シンクロ・スケートを取り巻く環境では、シンクロ・スケートの大学スポーツとしての可能性とチーム間のマナーが作りあげる環境について考察した。

●結論

日本のシンクロ・スケートの方向性について述べ、本研究が日本のシンクロ・スケートの振興の一助となることを期待し、また著者自らも日本のシンクロ・スケートの好循環形成を課題と受け止め本論文の結論とした。